

第三者評価結果報告書

《総括》

対象事業所名	救護施設ナザレ園
営主体(法人等)	社会福祉法人 ナザレ園
対象サービス	救護施設
事業所住所等	茨城県那珂市中里 322-2
設立年月日	昭和 42 年 4 月 15 日
評価機関名	株式会社 R-CORPORATION

《総合評価》

【ナザレ園の概要・立地】

●救護施設ナザレ園の運営は、社会福祉法人ナザレ園（以下、法人という）です。法人は、昭和24 年に開設された老舗の社会福祉法人であり、ここ救護施設ナザレ園の他に、養護老人ホーム、盲養護老人ホーム、特別養護老人ホーム、保育園、短期入所生活介護、障害者短期入所、通所介護、訪問介護、訪問看護、定期巡回等の居宅介護サービス事業、地域包括支援センター等を運営する福祉サービスのシンクタンクとして地域に大きく貢献しています。さらに、昭和40 年代から施設利用者が法人内の高齢者住宅居住者に食事を届けるサービスを行い、市内全域の一人暮らし高齢者等を対象に配達サービスも実施する等、地域のニーズに対応した在宅サービスにも力を入れ、地域に寄与しています。

●救護施設ナザレ園は、昭和24年に瓜連キリスト教会の牧師であった菊池政一（創始者）が奉仕事業として老人の家ナザレ園を設立し、昭和25年に生活保護法による養老施設として茨城県知事に認可を受け、昭和27年に社会福祉法人の認可を経て昭和42年に「救護施設ナザレ園」が設立されました。「ナザレ園」の「ナザレ」はイエス・キリストのふるさとナザレの町に因んで命名されています。救護施設ナザレ園は、定員90名の18歳以上の生活保護被保護者で事情により在宅生活が困難な方の入所を受け入れ、病院、矯正施設等を退院・退所後の一時的な住まいとしても提供しています。また、DV、虐待避難、ホームレス等、シェルターの役割も担っています。施設退所に向けた人生設計の支援も行い、居宅生活訓練事業として通所訓練も行う等、社会のセーフティ・ネット施設として貢献しています。

●救護施設ナザレ園は、JR水郡線上菅谷駅からタクシーを利用して20分位のところに位置しています。最寄り駅上菅谷駅是那珂市の代表駅で本線と常陸太田支線が分岐する駅であり、県庁所在地の水戸駅から6つ目の12～3kmと近く、都心であればベッドタウンの地です。常陸津田駅以北是那珂市と水戸市から外れ、水郡線はローカル線として沿線上の学校の学生が多く利用しています。救護施設ナザレ園を含む法人が位置する那珂市中里には、茨城県植物園・熱帯植物館や、森のカルチャーセンター等、豊かな自然に触れることができ、また、那珂市歴史民俗資料館、静神社、瓜連中学校、中里住宅等があり、ナザレ園の周辺には、ゆとりある敷地に徳農家の一戸建ての住宅が散見されます。ナザレ園は、広大な敷地に各種施設がゆったりと点在し、近隣一帯はナザレ園系列施設の総合福祉施設が最大の存在と云えます。

【救護施設ナザレ園の支援方針】

●救護施設ナザレ園の支援の方針は、「キリスト教精神に基づく「愛」を実践していきます。」であり、内容は、「喜びと希望を持ち、安心して楽しめる生活の支援」、「人権を尊重し、その人らしさを大切にする」、「福祉の仕事に、喜びを感じられる職場を目指す」とし、利用者、職員の人権を尊重した事業を展開しています。特に、法人全体の根幹は地域の困窮者の支援であり、内的な支援に止まらず地域に向けた支援を心がけ、必要なサービスを提供して積極的に地域と交流を図り、地域に開かれた施設として深く地域に根付いています。

《優れている点》

1. 【地域移行への支援】

●救護施設ナザレ園の今年度の目標の1つに、「地域移行10名、一般就労達成3名、通所事業利用者5名増、ユニバーサル就労受け入れ5名」の目標を掲げています。救護施設として利用者の永住を保障する傍ら、開放・循環型セーフティ・ネット施設を目指す姿勢を持ち、実施に向けて取り組んでいます。地域移行の居宅生活訓練者の選定は利用者の能力ではなく、本人の意思を最優先して決定しています。できる人ではなく、やりたい人にスポットを当て、それが実現した時の喜びを大切に考えています。利用者本人のインタビューの中で「ここでの3年間は満足、1か月前からの居宅は大満足」という言葉が印象的であり、「やりたい人にやらせてあげる」ことの取り組みに成果を得、利用者満足につながっています。

2. 【共同生活がスムーズに行える可能な限りの管理・制限の無い支援】

●救護施設ナザレ園の今年度の目標の1つに、「可能な限り管理・制限の無い支援」があります。「普通の暮らし」の視点で施設内のルールの見直しを検討しています。利用者本人のインタビューから、「食べるものが厳しくなった。昔は自由が利いて食事制限が無かったが、この頃は体重制限とか食べ過ぎだと言われる」や「酒、タバコは禁止になったが、コーヒーは飲んでいる」等、個人的な制限と共に希望等が挙がりました。インタビューの方については太り過ぎ、糖尿病への予防や、体調の関係上等と思われそうですが、体調を保つカロリー計算やドクターストップは必要ですが、制限される方は生活の楽しみとして不満もあるのでしょうか。団体生活を維持する最低限度のルールは必要です。それを踏まえた「可能な限りの管理・制限の撤廃」は利用者への良い「プレゼント」となっています。

3. 【地域に開かれた施設】

●法人全体の根幹は地域の困窮者の支援であり、内的な支援に止まらず地域に向けた支援を心がけ、貴重な施設においての地域との交流はとても希有です。昭和32年に措置の養護老人ホームを開設し、翌年に特別養護老人ホームが設置され、3番目に設置された救護施設ナザレ園以降、各種介護分野の機関を併設し、地域の福祉の中核として開かれた施設を目指して地域に根付き、貢献しています。特に、地域住民が参加できる集会として納涼祭、文化祭等のイベントを開催し、利用者、地域の方々、ボランティアの方々に身近な施設として足を踏み入れてもらう機会を多々設けています。また、地域の方が気軽に相談してもらえる施設を目指して地域に寄与し、地域に開かれた施設として日々取り組んでいます。

《さらなる期待がされる点》

1. 【さらなる障害者への支援について】

●救護施設ナザレ園では現在、障害の状況では、身体障害者手帳所持者 15 名、療育手帳所持者 17 名、精神障害者保健福祉手帳 34 名（何れも複数所持は其々にカウント）であり、何れに手帳も保有していない利用者は 57 名ですが、その内 70～80%は精神科の服薬をしています。手帳を保有していない利用者の中には精神障害や発達障害、軽度知的障害を持つ方の入所が増えてきている傾向にあります。「増えてきている傾向」という現代の表記ではありますが、昔は未分割であったことでしょう。個別に違う精神障害に対する支援の仕方はそれぞれ異なるべきで、今後、該当者への支援方法についての技術支援、研修強化の検討を図り、是非、さらなる職員の研鑽が期待されます。